

令和2年度 第1回 小牧市民健康づくり推進協議会 議事録

日 時	令和2年7月30日(木) 14時～15時
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>森 雅典 小牧市医師会会長 高野 健市 小牧市医師会副会長 三輪 雅一 小牧市医師会副会長 林 芳樹 小牧市医師会理事 三輪 貴彦 小牧市医師会理事 飯田 資浩 小牧市歯科医師会会長 木全 勝彦 小牧市薬剤師会会長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長 山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長 荒井 洋子 小牧市社会福祉協議会理事 林 順子 女性の会(会計) 青山 恵史 区長会連合会副会長(北里地区会長) 小川 真由美 小牧市議会福祉厚生委員長 西尾 朋子 小牧市保健連絡員役員</p> <p>【代理出席】</p> <p>山本 恒子 春日井保健所 健康支援課長</p> <p>【欠席委員】</p> <p>中川 宣芳 小牧市教育長</p> <p>【事務局】</p> <p>入江 慎介 健康生きがい支え合い推進部長 江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部次長 泉 重雄 保健センター所長 野口 弘美 保健センター所長補佐 森 里加 保健センター 成人保健係主査 永井 政栄 健康生きがい推進課長 岩下 貴洋 健康生きがい推進課 健康政策係長 小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主任</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>資料1 健康生きがい支え合い推進部組織図及び所管事務</p> <p>資料2 (仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の制定について</p> <p>資料2-1 (仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例に定める主な内容</p> <p>資料3 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施(市町村における実施のイメージ図)</p> <p>資料3-1 小牧市における高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について</p>
<p>1. 開会</p> <p>(1) 新任委員の紹介</p>	

(2) あいさつ

- ・ 入江部長あいさつ
- ・ 森会長あいさつ

2. 議題

(1) 今後の小牧市民健康づくり推進協議会の推進体制について

- ・ 事務局より、「資料1：健康生きがい支え合い推進部組織図及び所管事務」を用いて、説明。
- ・ 質疑、意見なし

(2) (仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例について

- ・ 事務局より、「資料2：(仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の制定について」と、「資料2-1：(仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例に定める主な内容」を用いて、説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

飯田委員)

- ・ 歴史的な背景として、国が「歯科口腔保健の推進に関する法律」を策定し、平成25年に愛知県が「あいち歯と口の健康づくり八〇二〇推進条例」を制定した。
- ・ その後、名古屋市をはじめ、現在17市町村において条例が制定されており、小牧市は後ろから数えた方が早い状況である。その分、検討する時間もあり、他市町の条例も参考にしながら、歯科医師会としての意見を入れていただいたところである。
- ・ 小牧市の条例では、各ライフステージで切れ目のない対策をとっていくことを付け加えさせていただいている。
- ・ また、口腔がん、オーラルフレイル、慢性疾患のある人への対応など、他の市町の条例にはない項目を入れていただくなど、真摯に対応していただきありがたいと思っている。

小川委員)

- ・ 今後、市議会に条例案が提出され、審議していくことになる。こうした理念条例が制定されることはよくあるが、条例制定した後、市民の方に広めるのが難しいと感じる。その辺りについて、何か戦略があるか教えてほしい。

事務局)

- ・ 若いうちから口腔衛生を保つよう歯科健診の重要性を広報や市HP、各種イベント等を通じて広く市民へ周知していきたい。

小川委員)

- ・ こういった条例を広く市民の方に知っていただくことが重要である。

飯田委員)

- ・ 条例の制定後には、市民向けに記念講演会等を考えている。
- ・ その他、小牧市と歯科医師会とが連携して、歯科のイベント等でも周知していきたいと考えている。
- ・ 理念法であり、条例制定後、市民の方の口腔衛生をいかに保つかの施策を考えていく事が大事である。

三輪(雅)委員)

- ・ 歯周病と糖尿病は相互に絡み合っており、糖尿病の合併症に歯周病があったり、糖尿

病があると歯周病が悪くなったりする。コロナの影響で治療中断している方もおられる。糖尿病連携手帳等をうまく活用できるとよいと思う。

(3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

- ・ 事務局より、「資料3：高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（市町村における実施のイメージ図）」と、「資料3-1：小牧市における高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について」を用いて、説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

飯田委員)

- ・ 先程から、フレイルという言葉が出てきているが、皆さんにフレイルという言葉がどの程度認知されているか聞きたい。

山田委員)

- ・ 計画書にも記載があり、英語辞典で調べたが、掲載されていなかった。
- ・ 虚弱とかそういう意味だったと思う。

森会長)

- ・ 老人クラブで、コンタクトがない方（来ない方）への声掛けや働きかけはしているのか。

山田委員)

- ・ 来ない人は半分くらいいるが、声かけなどは特別実施していない。
- ・ 話は変わるが、脳梗塞や脳出血など脳ドッグである程度発見できたらと思っている。
- ・ 初期の膵臓癌を見つけられるように健診に加えていただきたいというのが市老連としての要望である。

森会長)

- ・ 健診センター等で検査できるのか。

事務局)

- ・ 現在脳ドッグはないが、今ご意見をいただいたので、一度検討させていただきたい。

事務局)

- ・ フレイルという言葉について、市民の中に浸透していないのではないかというご意見であるが、私どもも同意見であり、健康生きがい推進課としては、様々な機会を通じて外に出向き、フレイルという言葉と、その対策の必要性について普及啓発していきたいと考えている。
- ・ ただ、昨今の社会情勢の中で、地域の集いの場等が自粛されているところもあり、実現していないところであるが、開催された暁には、まずは知っていただく、そして、その対策について一緒に取り組んでいけるよう本日、お集まりの関係団体のご協力をお願いしたい。

森委員)

- ・ 健診と介護保険のデータなどがデータ化されているのか。

事務局)

- ・ 資料3において、国が示している高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の中で、「医療・介護データ解析」と記載されている部分になるが、今年度から健康生きがい推進課においてKDBデータベースを閲覧できるような体制を整備した。
- ・ こうした健診データ等を踏まえ、本市の現状分析を実施していく。
- ・ 現在、健康状態不明者が何人くらいいるのかなども含めて、今後の協議会に資料とし

て示させていただき、本市としてどこから取り組んでいくかなど、皆様からご意見をいただいていたいきたいと考えている。

高野委員)

- ・ こうしたデータベースがあることを初めて聞いた。
- ・ このデータベースはいつから活用できたのか。

事務局)

- ・ KDB データ自体は国保のデータベースのことで、保険医療課（旧国保年金課）が所管していたデータであり、その所管課において、国保のデータは国保の担当が、後期高齢者のデータは後期高齢者の担当が活用していた。
- ・ そうした中で、保健事業と介護予防の一体的実施が推進され、制度改正がなされ、本市においても組織改正が行われたこともあり、今年度から着手することになったところである。

高野委員)

- ・ 今までこういうのがあるといいなと思っていたし、医者の世界でもこういったまとまったデータがなかったのだから、こんなことができるのだと知れてよかった。
- ・ とてもいい動きであり、第3回の協議会の時に示していただけるということで、期待している。

三輪(雅)委員)

- ・ 今年から75歳以上の後期高齢者への健康診査の問診票の内容がガラッとかわり、フレイル対策の問診票となったが、この問診票の結果について、フレイルの対象者とのように結び付けられるのか教えてほしい。

事務局)

- ・ 健診結果とともにこのフレイルチェックの問診票も KDB データシステムに反映されると聞いている。
- ・ 問診票の項目と健診の基礎データと併せて活用していきたいと考えている。

高野委員)

- ・ 分析されたデータを踏まえ、個別の対応等について、どうする予定か。

事務局)

- ・ どのような対象に絞っていくかという点についてもこの協議会の中で諮らせていただきたい。
- ・ 例えば、糖尿病重症化予防に取り組むとなれば、その対象者を抽出し、どのようなアプローチを、どのような体制で実施していくかなど詰めていく必要がある。
- ・ 進め方としては、資料3-1でもお示ししたとおり、健康生きがい推進課が事務局として設置している庁内プロジェクトチームでの検討を踏まえ、協議会の方にお示し、形にしていきたいと考えている。

三輪(雅)委員)

- ・ 先ほど飯田委員から発言があったように、まずフレイルという言葉が広がらないと意味がない。
- ・ 四文字のカタカナ言葉より、個人的には、「フレイル=寝たきり予備軍」にした方が理解はずっと進むのではないかと思う。もしよければご検討いただきたい。

事務局)

- ・ おっしゃる通り、市職員でもフレイルという言葉自体、馴染みのない言葉であり、いかに皆様に理解していただくかが課題でもあるため、参考にさせていただきたい。

山本委員)

- ・ 小牧市が前向きに取り組んでいこうという市としての姿勢が感じられる。
- ・ 我々保健所職員も、地域のデータを活用して地域の課題を見つけようとしているが、それぞれの担当ではデータを持っていても横のつながりがなくデータが見えないこともあったので、今回の取組みの中で小牧市の健康課題が見えてくるとよいと思う。

林委員)

- ・ KDB データは国保加入者のデータか。

事務局)

- ・ 国保加入者のデータであり、協会けんぽのデータ等は集約されていない。

林委員)

- ・ データは国保加入者として、保健事業の対象は市民全体ということか。

事務局)

- ・ その通りである。

高野委員)

- ・ オール小牧で実施していこうとする中、データが一部しかない状況にあるということだと思う。
- ・ 具体的にデータがない部分については、どうするのか。

事務局)

- ・ 現状としては、国保のデータのみしか見ることができず、まずは、今あるデータを基に分析を進めていきたいと考えている。
- ・ 協会けんぽが保有しているデータ等については、このような国の施策の動向を把握していると考えため、データの活用ができるように働きかけをしていきたい。

木全委員)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の関係を見てもいろんな分野のデータをAIを活用し分析できればよいが、日本はそういったAIの活用ができていないと感じる。
- ・ また、日本はデータベースがバラバラになっており、全体を見るということは難しいところもあるだろうと思う。
- ・ 基本的に1つのデータベースでやっていくということがよいと思う。残薬の問題も含めて、データが活用できるとよいと考える。

森会長)

- ・ 本日は、この一体的実施に関しては方向性を示していただいたところであり、いただいた意見については今後検討していただけたらと思う。

(4) その他

- ・ 議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。
- ・ 例年2回の協議会ではあるが、今年度は議題2にもあったように「(仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」の制定を予定しており、秋口と来年2月の開催を予定しており、年3回の開催とさせていただく。日程については森会長と相談の上、追って通知させていただく。

3. 閉会